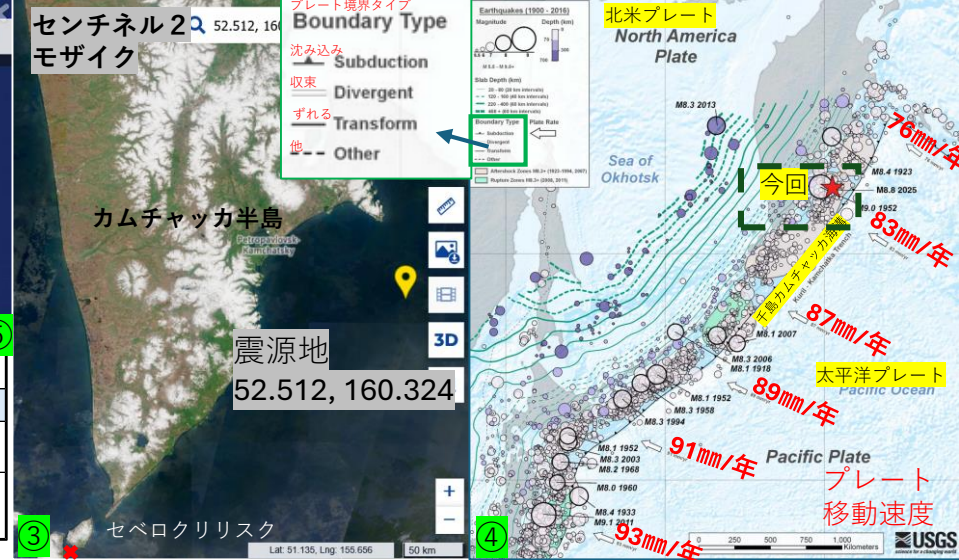




7月30日の私たちは、カムチャッカ半島沖の地震そして津波に関する情報をずっと見守っていました。
津波の伝わる速さは海の深さにより異なり、海が深いほど速くなります。水深5000m地点では約800km/hと、気象庁の資料は紹介しています。
<https://www.jma-net.go.jp/ishigaki/bosai/tmanual/pdf/m5.pdf>

いわき市小名浜の第1波の例では、時速約830kmでした。 ①

7月31日 NHKは、津波が同じ場所に数回も到達するのは、海底地形が影響しているのだと興味深い説明をしていました。 ②

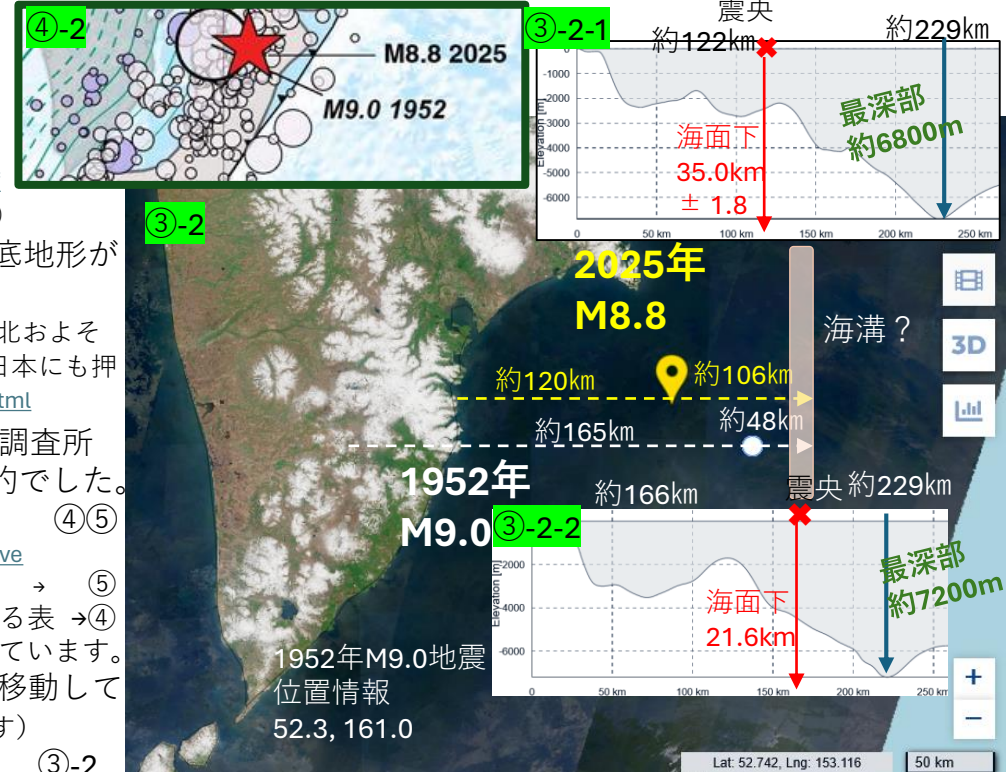
水深約6000mに、高さ4000~5000mほどの山のような天皇海山列が南北およそ2000km広がっている海底地形がある。海底地形によって反射した波が日本にも押し寄せた...。
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20250731/k10014880201000.html>

多くの報道では、気象庁の解説とあわせて「アメリカの地質調査所 (USGS)によれば...」ということばが何回も登場するのが印象的でした。そのUSGSのサイトに興味深い資料が2点あります。 ④⑤

<https://earthquake.usgs.gov/earthquakes/eventpage/us6000qw60/executive>

・今回の地震概要に関する情報 (気象庁発表情報とあわせた表作成) → ⑤
・千島カムチャッカ海溝にそって大きな地震が発生してる様子を説明する表 → ④
M8.4の1923年とM9.0の1952年の震源の間に今回の地震が位置しています。太平洋プレートが、北米プレートに向けて北東に毎年約80mm移動しています。(私たちの手の爪の伸びるはやさの約2倍と表現する方がいます)

コペルニクスブラウザで、海底の様子を探りました。 ③-2
2つの地震の震央は、最深部 (海溝?) より西側であることに着目します。 ③-2-1③-2-2



震央の位置情報が、コペルニクスブラウザの機能を発揮させてくれることに感心します。